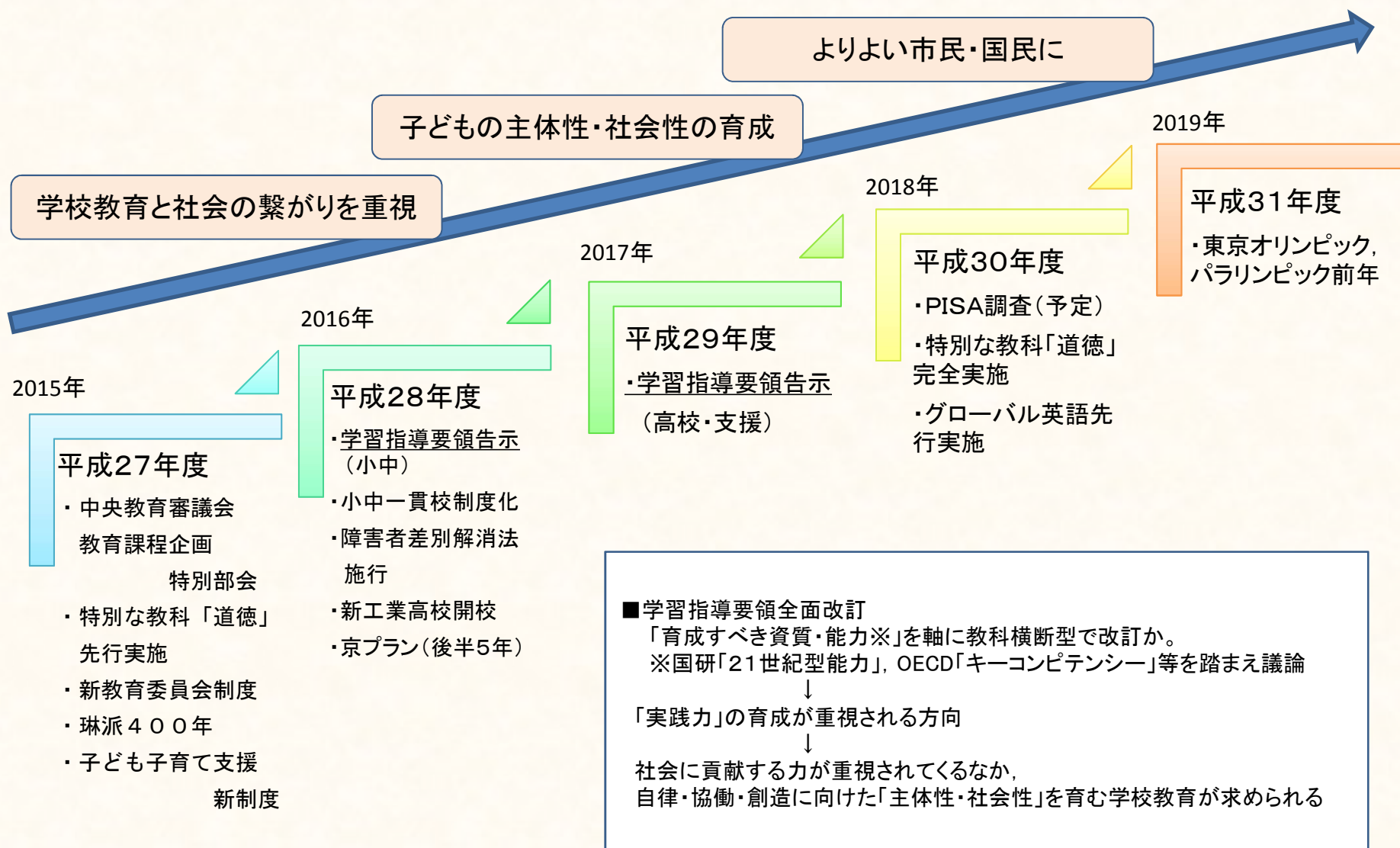


平成27年度 学校教育の重点



■ 今後5年間の動向



H27年度 学校教育の重点

目指す子ども像

伝統と文化を受け継ぎ、
次代と自らの未来を切り拓く子ども

■京都市の学校教育

- ・ 目指す子ども像
「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を切り拓く子ども」
- ・ 目指す教職員像
「教育者としての責任を自覚し、確かなビジョンと力量を持つ教職員」
- ・ 目指す学校像
「市民ぐるみ・地域ぐるみの教育の核となる学校」

■学校教育の基本指針

～確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和のとれた育成～

■学校運営の着眼点

- ① 子どもの命を守りきる
- ② 学ぶ意欲にあふれ規律ある学校風土を創る
- ③ 社会の変化を見据え、子どものキャリア発達を支援する
- ④ 学校の組織力を強化する
- ⑤ 教育者としての自覚と専門性を高める
- ⑥ 小中一貫教育など校種間連携を推進する
- ⑦ 保護者・地域との連携を推進する
- ⑧ 子どもや家庭に対する総合的・継続的支援を行う
- ⑨ 学校評価を活用して、教育活動の改善を図る

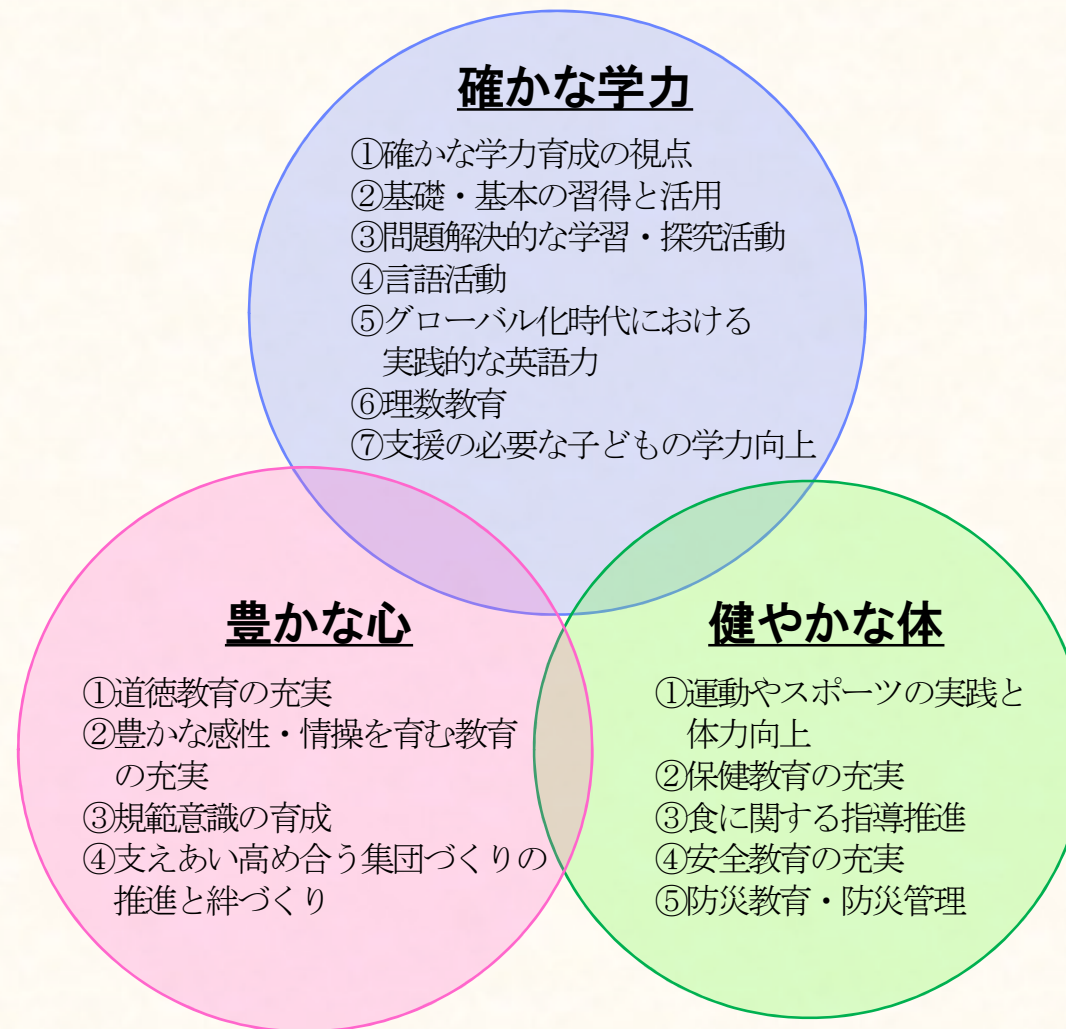
■平成27年度重点項目

子どもの主体性と社会性の育成に向けた「言語活動」と「協働活動」

- ・ つきたい力を明確にした「言語活動」
- ・ 自律性と責任感の育成を目指した「協働活動」



▶ 学校教育の基本方針⇒「生きる力」の育成



全国学力・学習状況調査をはじめとした様々なデータも踏まえ、PDCAサイクルで取組の充実を図る。

▶ 学校運営の着眼点⇒自校・園の強みをつくる9の視点



▶ 重点項目の設定⇒全市立学校・園の力を結集して子どもを育む

平成27年度重点項目

子どもの**主体性**と**社会性の育成**に向けた
「言語活動」と「協働活動」

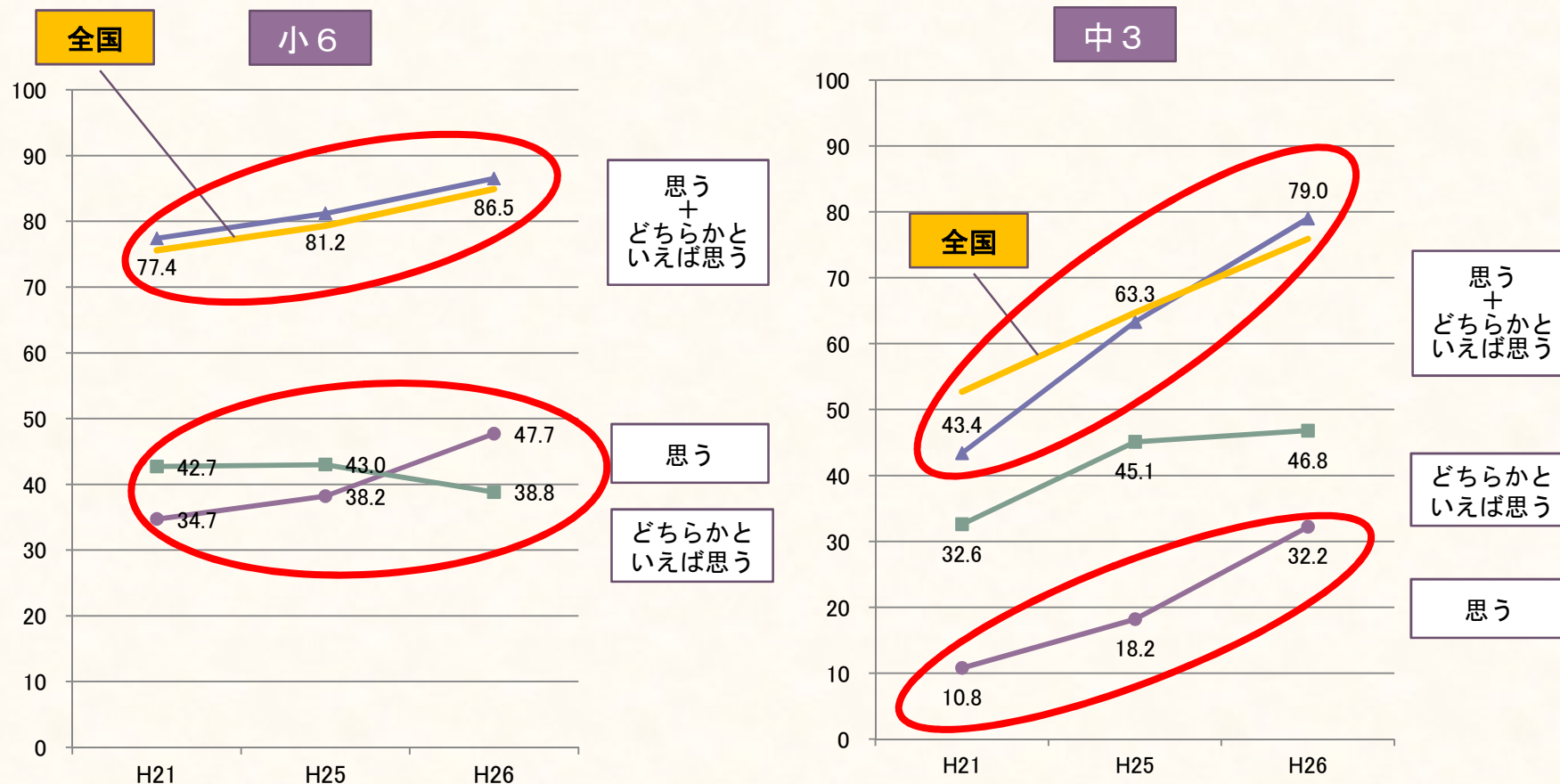
- つけたい力を明確にした「言語活動」
- 自律性と責任感の育成を目指した「協働活動」



【現状】

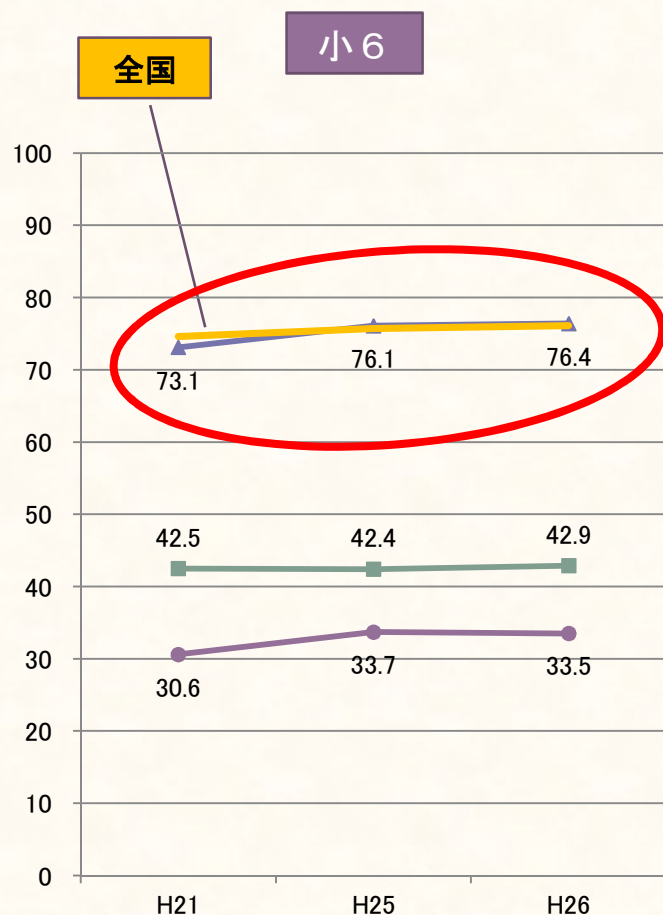
- 各校の重点取組は着実に進み、言語活動を通して思考力、判断力の向上につなげる授業改善が図られている。
- グループワークやたてわり活動、セッションや学年集会などで相手意識をもった協働的な活動が行われている。
- ▼ 子どもの学びの姿（授業、読書、家庭学習等）、自尊感情（自己有用感、自己肯定感等）、人権意識をもった言動（思いやり、協調、規範意識と正しい判断に基づく行動等）の面において、子どもの**主体性**や**社会性**の育成を意識した取組に高めていきたい。

Q1 ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。(肯定的回答)



話し合いの活動を実感(特に強く肯定)している割合が向上
⇒ 授業改善の効果。さらなる高みを。

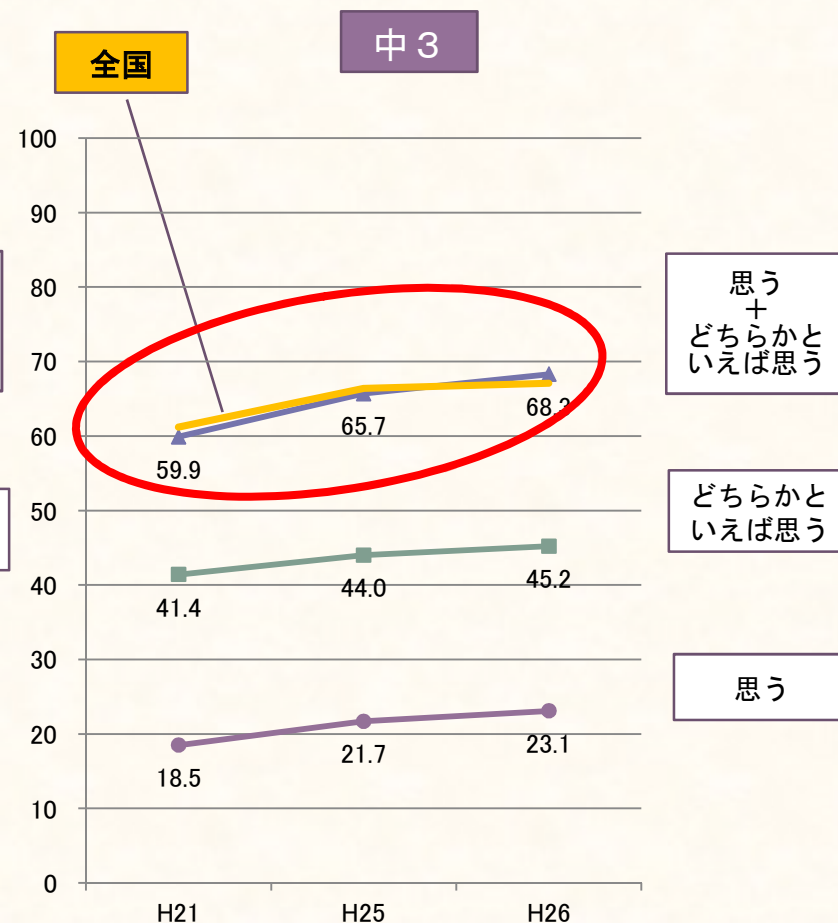
Q2 自分にはよいところがあると思いますか。(肯定的割合)



思う
+
どちらかといえ
ば思う

どちらかといえ
ば思う

思う



思う
+
どちらかといえ
ば思う

どちらかといえ
ば思う

思う

強い肯定をさらに高めたい。
⇒ 自己有用感を高める取組が重要

▶ 育みの共通イメージ⇒全市立学校・園の取組を核として市民ぐるみ・地域ぐるみで子どもを豊かに育みます。

